

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター  
住所：名古屋市中区三の丸3-2-1  
愛知県東大手庁舎1階  
TEL：052-954-6722  
FAX：052-954-6993  
開館：月曜～金曜 10時～17時



## 東日本大震災犠牲者追悼式

2021年3月11日



↑ 名古屋市 鶴舞公園・普選記念壇

→真宗大谷派名古屋別院(東別院)



### 新型コロナウイルス感染症

第3波終息に向け

## 警戒領域

2021年3月22日(月)～

### 新型コロナウイルス感染症

県民・事業者の皆様には、以下の点についてお願いします。

- ①不要不急の行動を控える
- ②感染防止対策の徹底
- ③時短要請・がた・ライン徹底
- ④テレワークの推進
- ⑤イベントの開催制限
- ⑥3月・4月に向けての行事等

### ●愛知県・新型コロナウイルス感染症「県民相談総合窓口」(コールセンター)

☎：052-954-7453 対応時間：9:00～17:00 (土・日・祝日も毎日)

### ●新型コロナウイルス感染症が心配な時の看護師による一般相談窓口 愛知県感染症対策局感染症対策課

☎：052-954-6272(ダイヤルイン) 対応時間：9:00～17:00 (土・日・祝も)

### 愛知県被災者支援センター

10年特集号

《もくじ》

- P1. 表紙写真:東日本大震災犠牲者追悼式
- P2. 「311」追悼式、オンラインあおぞらカフェ
- P3. オンライン・ファミリーコンサート交流
- P4～6. 特集：支援センター10年を振り返って
- P7. 特集：「あおぞら」1～129号を振り返って(編集委員)
- P8. ごあいさつ「10年の振り返りとこれから」(センター長)、編集後記

## 東日本大震災犠牲者追悼式 3/11(木) @名古屋市・鶴舞公園／真宗大谷派名古屋別院(東別院)

昨年の東日本大震災犠牲者追悼式は、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため式典会場での追悼式は行えませんでした。今年は感染予防対策を徹底しながら、昼間の部は鶴舞公園・普選記念壇、夕方の部は東別院で行われました。大震災から10年目の今年は、例年と比べて穏やかな天候に恵まれ、それぞれの会場に約500名、計約1,000名の参加者がありました(主催者による)。**【主催：東日本大震災犠牲者追悼式 あいち・なごや実行委員会 レスキューストックヤード他13団体】**



会場入り口で検温と手指消毒を行いながら記帳を、ステージの階段のキャンドルが揺らめき、参加者が順次献花と祈りを捧げました。14:46には東北方面を向いて黙とうをして、犠牲になられた方々への宣言文を実行委員長が読み上げました。献花の時には、「リコセガゴスペルファミリー」によるゴスペル鎮魂歌が静かに流れました。



コロナ禍のためか参加者は例年より少なめでしたが、岩手県、宮城県、福島県、関東からの避難者の方々の顔が見えました。それぞれマスコミ各社のインタビューに、10年の愛知県での避難生活や避難元の復興等について、「自分たちが伝えていかなければ」と丁寧に答えていらっしゃる姿が印象的でした。

## オンライン・あおぞらカフェ「ネトルのコンソメスープ」3/10(水) 参加者:4世帯4名(+後に3名)

今回の「ネトルのコンソメスープ」は、花粉症等にも効果があると言われるハーブのネトルとコンソメのスープでした。ネトルは西洋イラクサのことで、浄血と造血のハーブとしても有名で、体内に蓄積した毒素やアレルギー物質を除去し心も身体も整えるとされています(福島の昭和村では茎を繊維として利用も)。

作り方は簡単で、熱湯でコンソメスープを作り、ネトルを入れるだけです。抽出するのに15分くらいかかるので、その間に講師の鈴村ユカリさんからネトルの効能について説明を受けました。飲む時にタイムとマジョラムの粉末を少量加えると、とても良い香りがしました。



参加者の感想交流で、

Sさん:

「ネトルを食べてみたら美味しい、そのまま

食べて良いですか?」☺「味噌汁に散らしてもおいしいですよ」(鈴村)

Mさん:「知り合いが花粉症予防で半年くらい続けてネトルを飲んだら、花粉症にならなくなった」

Tさん:「おいしい!」。(ネットで調べて、ネトルはトゲがあるから)「奈良では鹿の被害に、来てほしくない所にネトルを植えているって?!」「だったら猪被害にも?」「苗はどこに売っているのだろうか?」と話が弾みました。(スタッフ仲田)



## 「みんなで歌おう！オンライン・ファミリーコンサート交流」 @豊田市旭町・つくラッセル

「オンライン・ファミリーコンサート交流」が、3/21(日・10:00~12:00)に豊田市の「つくラッセル」の体育館にて開催されました(主催:コンサート実行委員会、共催:被災者支援センター)。歌ったのは避難当事者(避難元:茨城県)で豊田市在住のソプラノ歌手竹内支保子さん(ピアノ伴奏:山岡恵さん)。日頃から地元の合唱グループの指導やお子さんの学校でコンサートを行うなどの音楽活動をされてきました。



今回はコロナ感染予防の対策をとり、開け放した体育館の中で広く距離を取りながら、会場と同時にオンライン開催する“ハイブリット”のコンサートとなりました。

愛知県被災者支援センター長(栗田暢之)の挨拶から始まり、第一部はコンサートとお話(高野雅夫さん・名古屋大院教授)、第二部は避難当事者のトークセッション。第一部ではなじみの曲からクラシック、クイズ形式のピアノ連弾、震災の中で生まれた和合亮一作詞の曲、子どもから大人まで一緒に歌える手話付きの歌などのプログラムでした。



第二部のトークセッションは高野さんの司会で竹内さん、会場参加の小野佳奈さん、鈴木ユカリさん、オンライン参加の根本美佳・未結さん、山本由香さんにこの「10年」を語り合っていました。

### 【トークセッション参加者の感想から抜粋】

「久しぶりの生の歌声。「ああ、しほちゃんの声だね」と思った瞬間、涙がじわり…歌詞やメロディ

とこの10年が重なって涙がポロリ。震災がなければ出会う事なかった方々との素敵な時間がゆったりと流れていきました。オンラインで懐かしい顔も拝見でき、皆未来に向かって着実に歩んでいるなあと元気づけられました。失ったモノの分だけ、何かをもらっているという高野先生のお話もとても印象に残り、これからの人生後半のスイッチが入った様な気がしました。地域の方が大切にしている里山での交流会へ参加させていただき、本当にありがとうございました。」(小野佳奈)

「支援センターの皆さんや避難者の皆さんが弱さの共有をして下さったから、心



を開いて飛び込めたし、皆さんといるだけで心がホッとして落ち着くんだと気づきました。10年経って、やっと心の整理ができて、少し肩の力を抜いて次に進めそうです。栗田さんの強くて温かい言葉にも、いつも感謝の気持ちでいっぱいになります。寄り添ってもらえていることが、とても大きな支えになっています。こうした志を、私も私なりのやり方で引き継ぎたいと、改めて感じました。それが私の夢の原動力です。」(山本由香)

「支保子さん素敵だった！歌声は精彩を放ち、体育館狭しと春の里山に響いていました。外は春の嵐、その大雨も支保子さんの脇役のよう。10年。みんな自分の人生を生きて違う景色を見てきたと思います。様々な取捨選択の先の今を生きながら、個々の轍を刻んでいます。震災後ボランティアで活きたアロマに自分も励まされて来たこと、新たに春を迎えようと思った時間でした。」(鈴木ユカリ)

「支保子さんの歌声が聞けて、皆さんのお顔が見られて、嬉しかったです。未結も私も楽しみました。また、がんばれそうです。」(根本美佳)

(編集スタッフ戸村)

特集—愛知県被災者支援センターの10年—全体交流会アルバム



第一回「ふるさと大交流会」2011年度(名古屋市)



参加者の集合写真



センターについて説明



第二回「温泉大交流会」2012年度(蒲郡市)



夜の懇親会は真夜中まで



夕食の席で「はじめまして」



第三回「温泉大交流会」2013年度(西尾市)



学生ボランティア等説明



フラダンスを皆で踊り楽しむ



第四回「温泉大交流会」2014年度(西尾市)



アロマハンドで癒し



浜辺で思いっきり走った!



第五回「全体交流会」2015年度(名古屋市)



子どもと一緒に相談会



避難当事者の活動展示

特集—愛知県被災者支援センターの10年—交流会アルバム



「ゆるりっと会」2012(小牧市)



ふるさと祭り芋煮会 2012(名古屋市)



「ふれあいひろば小牧」2013(小牧市)



「岩手県・宮城県気軽にお茶飲み交流会」2016(東海市)



「ふくしま交流会」2018(豊橋市)



「夏休み・ユース交流会」2019(名古屋市)



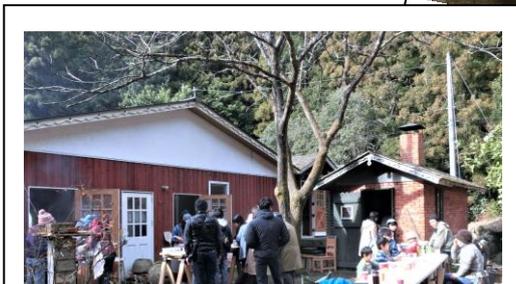
「田原市交流会」2017(田原市)



「芋ほり交流会」2013(飛島村)



「濱田農園交流会」2015(東浦町)



「森林浴・石窯交流会」2020(岡崎市)



「めぐりあい花見会」2016(名古屋市)

特集—愛知県被災者支援センターの10年—交流会・説明会アルバム

パパ・ママ・キッズ☆「ゲンキ・すまいる・プロジェクト」夏企画(2013年) @春日井市少年自然の家



パパ・ママ・キッズ☆「ゲンキ・すまいる・プロジェクト～リラクゼーションとクリスマス・ファミリーコンサート in 飛島村」冬企画 (2013年) @飛島村中央公民館



交流相談会 2015



甲状腺エコー検診&交流相談会 2019



県内避難者支援制度説明会 2011



小中学校絵手紙贈呈式(あま市)2014



お米贈呈式(飛島村)2014



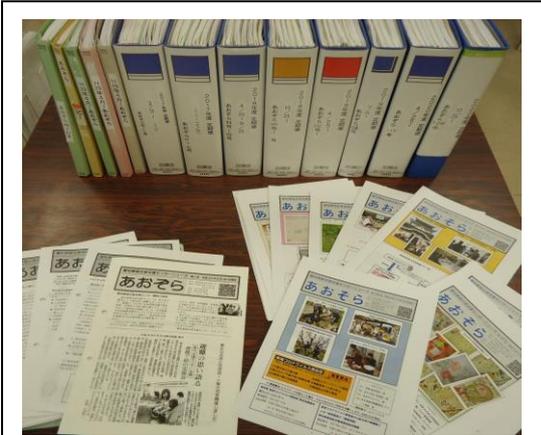
あおぞらカフェ「放射能勉強会」  
2018



原発事故損害賠償制度説明会 2011



「子ども被災者支援法」説明会 2013



『あおぞら』1号~128号(129号編集中)

### <『あおぞら』編集委員・元編集担当メッセージ>

○編集委員は2013年頃からだったでしょうか、何かを語ろうにも未熟な自分にいつも不甲斐なさを抱え、人生の先輩方に温かく見守っていただきながら、色々な景色を見せていただきました。震災前は、中山間地域の限界集落で地域活性化、都市と山里の交流人口を増やそうという、いわき市の市民団体に子連れスタッフとして炊事などお手伝いしていました。あの頃は住民ではない「よそ者」「若者」で、会議の席では椅子を温めるだけの存在でした。自分事として携わることの大変さを、この数年で支援センターを通して改めて感じ取れたような気がしています。(鈴木ユカリ)

○震災からやっと1年が過ぎた頃、家族で愛知へ避難して約9年の月日が経ちました。小学生だった娘たちも成人を迎え、子育てもゴールに近づきました。その間、生活の不安や心の変化、ちょっとした愚痴から大きな文句まで、全てに寄り添ってくださったのが被災者支援センターの皆さまでした。「いつもここに居るよ!」というセンターのメッセージは、私どもが一步踏み出す時の大きな励みになっています。誰一人も取りこぼさないという社会を形成していくことの大切さと難しさを、センターの皆さんから数多く学ばせて頂いた年月でした。(小野佳奈)

○『あおぞら』編集会議では「東北」「被災地」をキーワードに、支援する人、支援される人との出会いがあり、会議の中で対話を重ねる毎に、自分の立ち位置や役割が明確になりました。(小松恵利子)

○長い間寄り添って下さった、支援センター、ボランティアの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。編集委員に誘って頂いて、大げさではなく私は命を救われました。将来が不安いっぱい、話せる仲間もいなかった私は、編集に関わることで現実を冷静に見たり、心の整理ができました。そして心強い仲間や家族のような強いつながりができたことが、今も心の支えになっています。(Y.Y)

○私は「支援する人を応援しよう」という気持ちで、私にでもできる事をお手伝いさせていただきました。その中でいろんな方と繋がり、多くの事を学び、吸収させていただいた年月でした。(富田祥子)

○私が『あおぞら』に従事したのは最初の3年間でした。『あおぞら』の編集は、最初は手探りで、何をどのように掲載しようかとスタッフみなで頭を絞りました。避難者の方々にも編集委員としてご協力をお願いし、編集委員会でご意見やご提案をいただきました。また『あおぞら』の話題だけではなく、それぞれの近況や情報交換、悩みや愚痴る場ともなっていました。被災・避難者目線で大切な情報を皆さまに提供できたことも、良い思い出です。(1~45号編集担当 松岡 毅)

○何よりも大切にすることは、避難者が自分の思いを語り、それを別の避難者の方に読んでもらうことでした。避難者の方に編集委員になってもらい、やがて『あおぞら』は避難者の書く記事で埋められるようになりました。顔写真を載せることも珍しくなく、読まれた避難者の方は「私の考え方と似ている」「私とは考え方が違うが理解できる」などと受け止められ、心の支援に繋がったと思います。(瀧川裕康) (→8ページ中段につづく)

## 特集—愛知県被災者支援センターの10年とこれから

愛知県被災者支援センター長 栗田暢之

簡単には思い返すこともはばかる未曾有の地震と原発事故は、皆様それぞれに筆舌に尽くしがたい被災をもたらしめました。そして、かけがえのない命と安心安全な日常を守るため、愛知に避難されました。苦渋の選択だったと思います。あれから10年。「はや10年、まだ10年」、人によって感じ方は様々でしょう。この間も様々な困難に直面されながらも、今、こうして力強く毎日を歩まれている皆様に、改めてエールを送りたいと思います。

2011年6月13日に開所した当センターは、全国でも珍しい公設民営により運営されています。公設の強みは、役所同様に常に窓口が開かれ、皆様方と連絡が取り合える信頼性、定期便や本紙『あおぞら』をきちんとお届けできる確実さという点です。民営の強みは、個別訪問や交流相談会の開催などで培われた親和性、いざという時には、直接駆け付ける柔軟さ、機敏さという点です。また、弁護士、司法書士、臨床心理士、保健師、看護師などの専門家、外国人サポートの専門NPOなど、多様な分野の方々のご協力により、連携体制も構築されています。今年度は、新型コロナウイルス感染症に振り回されたりして、まだまだ不十分な点は多々ありますが、何とか皆様方の力になりたいと、チャレンジを続けた10年でありました。

しかし、10年は単なる通過点に過ぎないことも、私たちは認識しています。復興庁の10年延長も決定していますので、当センターがすぐなくなることはありません。新しい年度も、この強みをさらに生かして、皆様方の一番近いところで、必要に応じた支援に引き続き尽力していきたいと願っています。どうか、皆様方からも遠慮なく、いつでも声をお届けください。

(→7ページよりつづき)



○『あおぞら』の紙面を考える時、その時期にどんなことが求められているのか、ふと気になり読んでみようと思える記事があるか、読んだ後少しでも元気が出たと思っていただけるかなど、常に

心して編集に取り組んでいます。果たして皆さんに手に取っていただけているでしょうか。率直なご意見・ご感想をお寄せいただけますよう、お願いいたします。(戸村京子)

### 【イベント情報】



開催日	イベント名	内容(主催など)	会場
4月21日(水) 9:30~11:30	里山を歩きましょう	東山公園1万歩コースを歩きましょう! 主催:実行委員(担当:沼田)	(地下鉄)東山公園駅西口集合
5月16日(日) 10:00~15:00	岩手県宮城県 気軽にお茶飲み交流会	コロナ過、感染予防対策を取りながら新緑のしあわせ村で散策やおしゃべりを楽しみましょう!主催:実行委員会 共催:センター	東海市しあわせ村/(名鉄)聚楽苑駅徒歩5分

### 《編集後記》

- ・コツコツ、地道が苦手なほうな自分ですが、アロマハンドトリートメントで皆さんとつながれる活動は、気がつけば2013年から現在に至ります。センターとの出会いは一生の宝になりました。(S.Y)
- ・温かい 春本番の 日和なり 歩き汗かく 心が弾む (T.H)
- ・甘夏の酸味!! この時期の一番のエネルギー源。皮はピールにして、捨てるトコなし。(T.S)
- ・これからの10年はどんな日々となるのだろうか? 一步一步を踏みしめていきたいものだ。(T.K)